

■河鍋曉斎 浮世絵師、日本画家。幕末に戯画で名をなし、維新後は、独自の画風が西洋からも高く評価された。

かわなべぎょうさい

富嶽三十六景1831= 下総国古河で、米穀商の次男に生まれる。藩士の家の養子になっていた父が、

鼠小僧磔・1832= 1歳：武士の株を買い、火消同心を継いだため、一家で江戸に出て、本郷に住む。

天保大飢饉始1833= 2歳：早くも蛙を写生するなど、幼時より画才を発揮し、また神童といわれ、

大塩平八郎乱1837= 6歳：父に連れられ、江戸の歌川国芳に入門、浮世絵を修業。

勅進帳初演・1840= 9歳：士族の子として、狩野派の前村洞和にも入門でき、  
天保改革始・1841=10歳：洞和が病気になったため、その師の狩野洞白に学ぶことになる。

阿部正弘首座1845=14歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1848=17歳：毎月開かれる古画鑑定会で、鑑定の実力が認められる。

北斎没・ ・ ・ 1849=18歳：狩野派の修業を終え、号を与えられるが、

国定忠治磔・1850=19歳：館林藩秋元家の絵師坪山洞山の養子となる。

尊徳報徳論・1851=20歳：狩野洞白の祖母の墓前で、以前から狂言師について学んでいた能狂言を舞う。

万次郎帰国・1852=21歳：養子先から離縁される。

ペリー来航・1853=22歳：前村洞和が死去すると、

開国開港・ ・ ・ 1854=23歳：流派に縛られることを嫌い、狩野派と縁を切るも、恩義は感じ続け、

安政大地震・1855=24歳：安政大地震後、仮名垣魯文と組んで鯉絵を出す。

最初は貧窮していたが、

蕃書調所・ ・ ・ 1857=26歳：酒井抱一の弟子鈴木其一の次女と結婚し、画家として独立。父の希望で河鍋氏を継ぐ。

五ヶ国条約・1858=27歳：\*葛飾北斎の画風に影響されて、戯画の世界にテーマを見だし、狂斎と号して人気を得た。

安政の大獄・1859=28歳：狩野派に狩り出され、増上寺の絵を修復。長男は夭折、妻が病没し、農家の娘を後妻に迎え、

桜田門外変・1860=29歳：次男(のちの暁雲)が誕生するが、父の死去に続いて、後妻も死去。

8月18日政変 1863=32歳：この頃から、「御上洛東海道」「東海道名所之内」「天竺渡来大評判象乃戯遊」「曲結稚画手本」など、錦絵を盛んに出し始め、絵本「鷹かがみ」「大和錦」「狂斎百図」の刊行開始。

禁門の変・ ・ ・ 1864=33歳：愛宕山の狂歌碑のために「大黒えびす弁天図」を描く。錦絵の連作「狂斎漫画」「竜宮魚勝戦」「風流蛙大合戦之図」など。

薩摩藩士密航1865=34歳：信州戸隠神社中院の天井に竜を描く。

薩長同盟・ ・ ・ 1866=35歳：火事で焼け出される。

大政奉還・ ・ ・ 1867=36歳：輪王寺宮家の家臣の娘を新たに妻を迎える。この年、初めて旅に出る。「放屁合戦絵巻」。

明治維新・ ・ ・ 1868=37歳：娘が誕生。のち自ら弟子として育て、暁翠となる

以後、旅の途中に、寺院などに依頼されて描くとともに、豪放磊落、酒を好んでつねに離さず、また奇行をもって知られる一方、年をとって足を悪くし、仕事を失った上身寄りのない老人に絵を与え、以後、その老人が見物人を集めてその絵を講釈すると、多くの賽銭が投げられて生活できるようになった話もある。

初の日刊新聞1870=39歳：\*上野の不忍池弁財天境内の料亭の書画会で、酔いにまかせて描いた戯画が、政府要人を風刺したものと密告されて3ヵ月間拘留される。放免されるも健康を害し、異端児に徹するべく暁斎と改名。

廃藩置県・ ・ ・ 1871=40歳：仮名垣魯文の「安愚楽鍋」に挿絵を描く。以後10年、魯文や服部応賀などの著作の挿絵を盛んに描く。

学問のすすめ1872=41歳：母が死去。この間、日本橋の本店勝田家から一人娘を供養のために以来されて、「画風も性格も全ての面で正反対の柴田是真と合作ともいえる「地獄極楽めぐり図」。

明治6年政変 1873=42歳：ある商人の依頼で描いた大職がウィーン万国博覧会の日本庭園入口に翻る。「通俗伊蘇普物語」に挿絵。

佐賀の乱・ ・ ・ 1874=43歳：魯文と組んで日本で最初の漫画雑誌である「絵新聞日本地」を創刊。連作「暁斎楽画」出版開始。

三つの反乱・1876=45歳：来日したフランスの宗教学者が画家を伴い突然訪問、「釈迦如来図」を贈り、

大久保暗殺・1878=47歳：続いて、海軍医学校教授をしていたイギリス人にも絵画制作を依頼され、さらにギメの著書「日本散策」に記述されて、その名が西洋に知れわたり、

琉球処分・ ・ ・ 1879=48歳：この頃から、本郷靈雲寺の法弟となり、如空と号したといわれる。

・ ・ ・ ・ ・ 1880=49歳：依頼により成田山への奉納絵馬「大森彦七鬼女と争うの図」を描く。魯文が新富座に贈る引幕を描く。

明治14年政変1881=50歳：\*第二回内国勲業博覧会に出品した四点のうち「枯木寒鴉図」が妙技二等賞、柴太楼主人が100円で買い上げ、高過ぎるといふ噂に堂々と主張、かえって人気が出て鴉の絵の注文が相次ぎ、以後鴉を象った中に恩の字を加えた印を作って使用。「暁斎画譜」「暁斎鈍画」「暁斎略画」「暁斎漫画」など絵本の出版が相次ぐ。日本人が西洋から学ぶことに熱中している時代に、建築学教授をしていたJ.コンドルが入門して親交するに至る。

新体詩抄・ ・ ・ 1882=51歳：第1回内国絵画共進会に出品。駿河台狩野家伝来の前立観音像を預かり、

岩倉具視没・1883=52歳：第1回パリ日本美術縦覧会に出品。コンドルに暁英の号を与える。

秩父事件・ ・ ・ 1884=53歳：第2回パリ日本美術縦覧会に出品。\*臨終間際の狩野秀信から画法遵守を依頼され、すでに大家となりながら、改めて狩野派に入門して、

内閣発足・ ・ ・ 1885=54歳：妻が死去。

帝国大学始・1886=55歳：皇太后・皇后が東洋絵画共進会会場に行啓、娘暁翠が跡見花隠ら閨秀画家の一員として御前揮毫、

帝国憲法発布1889=58歳：胃がんのため没した。